

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	自然環境課	職	課長	氏名	川口 正人
評価者	組織	自然環境課	職	次長兼課長	氏名	手井 博史

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理	1 絶滅危惧 I 類の種数	種	183 (H22)(※)	273 (H27)	273 (H28)	B
		2 指定希少野生動植物種の数	件	20 (H22)(※)	20 (H27)	20 (H28)	

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価		
施策	課題		成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
						(年度)	(年度)						
施策1	課題1	希少種の保存	トキの繁殖数	羽	50 (H28)	45 (H27)	50 (H28)	トキ分散飼育費	県民	28,927	28,789	B	継続
	課題2	野生鳥獣の保護と管理	1 クマによる人身被害件数	件	0 (H22)(※)	2 (H27)	2 (H28)	大型獣対策事業費	県民	13,852	10,821	C	継続
			2 イノシシによる農業被害額	千円	30,000 (H28)	70,325 (H27)	81,061 (H28)						
3 シカの平均糞塊密度	糞塊/km	1.4以内 (毎年度)	1.8 (H27)	2.3 (H28)									

(※)H23以降も目標達成に向け努力

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	トキ分散飼育費	事業開始年度	H21	事業終了予定年度		
		根拠法令	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律・トキ保護増殖事業計画			
		・計画等				

作	組	織	自然環境課		
成	職	氏名	主任主事 登美 雄太		
者	電話番号	076 - 225 - 1476 内線 4265			

**事業の背景・目的**  
 環境省のトキ保護増殖事業計画に基づき、平成22年1月に佐渡トキ保護センターからいしかわ動物園にトキが移送され、本県でのトキの分散飼育が開始したことを受け、トキの飼育繁殖を円滑に実施することを目的とする。

**事業の概要** 28,927 千円

- 1 トキの飼育繁殖の実施  
 国の全体的な飼育繁殖計画に基づいてトキの飼育繁殖を実施し、一定の飼育個体群を形成することで、鳥インフルエンザ等の感染症による再絶滅の危険を回避する。
- 2 トキの飼育・繁殖技術の研鑽  
 トキ飼育先進地である佐渡トキ保護センター等の視察を行い、トキの飼育繁殖技術の研鑽を図る。
- 3 トキの飼育・繁殖に関する情報の収集  
 環境省が開催する専門家会合や検討会等への出席や、専門家の招へい等により、トキの飼育・繁殖に関する情報を収集する。
- 4 トキの移送  
 いしかわ動物園において増殖したトキを佐渡トキ保護センターへ返還する。
- 5 トキの普及啓発  
 トキを通じた普及啓発のため、動物学習センター内に設置したトキの展示・映像コーナーの管理、運営一式を行う。

**<参考> 環境省の動き**

- 平成19年度 鳥インフルエンザ等の感染症による再絶滅の危険を回避するため、多摩動物公園に緊急移送を決定。分散飼育先の選定の検討
- 平成20年度 分散飼育候補地の視察(H20早春以降)。分散飼育地の決定(H20年12月)
- 平成21年度 分散飼育実施地の視察(H21秋)。トキの移送(H22年1月)
- 平成25年度 追加繁殖1ペアの移送(H26年1月)

施策・課題の状況						
施策	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理				評価	B
課題	希少種の保存					
	指標	トキの繁殖数			単位	羽
	目標値	現状値				
	平成28年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	50	23	31	41	45	50

事業費					
(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	19,498	21,040	26,126	26,773	28,927
予算	19,498	20,973	25,968	26,680	28,789
決算	19,498	21,040	26,126	26,773	28,927
一般	19,498	21,040	26,126	26,773	28,927
財源	19,768	20,973	25,968	26,680	28,789
決算	19,768	20,973	25,968	26,680	28,789
事業費累計	77,250	98,223	124,191	150,871	179,660

評価	
項目	評価
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">B</div> <p>佐渡トキ保護センターから平成22年1月に2ペア(4羽)、平成26年1月に追加の1ペア(2羽)のトキがいしかわ動物園に移送され、飼育繁殖に取り組んできたところであり、平成28年度には5羽のヒナが無事に巣立ちを迎え、トキの安定的な個体群の形成に貢献することができた。</p> <p>また、平成28年11月にオープンしたトキ里山館において、トキの姿を間近に観察していただくことで、その生態や生息環境について理解を深めるとともにトキを育む環境づくりの大切さを考える契機としていただくことができた。</p>
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">継続</div> <p>トキの飼育繁殖技術の更なる向上を図り、希少種の保護増殖に貢献するとともに、里山や生物多様性のシンボルであるトキを通じて、県民にかつてトキが生息していた里山環境に理解を深めていただき、里山保全活動の裾野の拡大につなげる。</p>

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	大型獣対策事業費	事業開始年度	H23	事業終了予定年度		作組織	自然環境課	
		根拠法令 ・計画等	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律、特定鳥獣保護管理計画 (H13年度策定、H18延長)				成職・氏名	専門員 西本史恵/主事 船本こころ
						者電話番号	076 - 225 - 1477 内線 4268	

## 事業の背景・目的

(背景1 クマの個体数増加及び里山周辺での定住)

近年、市街地周辺等でもクマが目撃されており、里山周辺でのクマの定着が危惧されることから、一般県民を対象としたクマ対策啓発フォーラムや、クマの目撃が多い地域住民向けのセミナーを開催するほか、里山地域におけるクマの生息状況を把握し、より適切な管理のための基礎データ収集を図り、人身被害防止につなげる。

また、平成29年度に第1期石川県ツキノワグマ管理計画が改定年度を迎えるため、クマの生息数等を調査し、管理目標の設定等のため基礎データを得る。

(背景2 ニホンジカの生息域の拡大)

ニホンジカについては、生息数も少なく、分布も南加賀地域に偏っているという侵入初期の低密度の段階と考えており、個体数増加を抑制していくには、効率的に捕獲をする必要があるため、高密度な地点(越冬地や繁殖地)を把握する調査等を継続し、蓄積した調査データを、市町に引き続き提供することで、捕獲の促進につなげる。

(背景3 イノシシの県内全域への分布拡大)

繁殖力の高いイノシシについては、生息域が県内全域に拡大しているが、これまで生息数の有効な算定手法が確立されておらず、個体数が把握できていなかった。

今年度は、イノシシの特定管理計画の策定年度となるため、昨年度行った個体数推定等のデータ更新を行い精度を高め、その調査結果を管理計画に反映し、市町の捕獲の促進につなげる。

(背景4 ニホンザルの生息域の拡大)

ニホンザルについては、特獣管理計画に基づき、群れの加害度に応じた個体数管理を行っている。今年度は、計画の策定年度となるため、県内における群れの現状を把握する必要がある。

## 平成28年度事業概要

### (1)【拡充】クマ人身被害防止対策事業及び生息状況調査(4,752千円)

- ・都市部の住民を中心とした県民全体を対象に人身被害防止対策を普及啓発するフォーラム及びクマ目撃情報が多い地域等の住民向けに人身被害防止対策を普及啓発するセミナーを開催
- ・市町向け捕獲技術研修会の開催
- ・個体数推定調査及び年齢査定調査の実施
- ・里山クマ調査(自動撮影カメラによるモニタリング調査)の継続

### (2)【継続】ニホンジカ被害未然防止対策(6,100千円)

- ・効率的な捕獲促進に繋がる各種調査の実施
- ・市町・狩猟者等を対象に、被害未然防止対策セミナーを開催し、調査結果等を提供し、捕獲意欲の喚起を行う。

### (3)【継続】イノシシ個体数推定等業務委託事業(1,000千円)

- ・県全体及び地域ごとの個体数推定及び将来予測の実施
- ・市町・狩猟者等を対象に、説明会を開催し、調査結果等を提供し、捕獲促進につなげる。

### (4)【新規】ニホンザル生息状況調査事業(2,000千円)

- ・群れの現状を把握するため、テレメトリー調査、アンケート調査の実施
- ・群れの実態把握を継続して行うため、市担当者対象の研修会を開催する。

施策・課題の状況							
施策	積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理					評価	B
課題	野生鳥獣の保護管理						
指標1	クマによる人身被害件数				単位	件	
目標値	現状値						
H22(※)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
0	4	1	5	2	2		
指標2	イノシシによる農業被害額				単位	千円	
目標値	現状値						
H28	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
30,000	34,632	49,777	91,449	70,325	81,061		
指標3	シカの平均糞塊密度				単位	糞塊/km	
目標値	現状値						
H25	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
1.4以内	1.4	1.4	1.6	1.8	2.3		
※平成23年度以降もこれを目指し努力							

事業費						
(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
事業費	予算	5,630	3,684	11,164	15,323	13,852
	決算	5,528	3,012	9,361	15,195	10,821
一般	予算	5,630	3,684	1,499	5,000	4,752
財源	決算	5,528	3,012	1,341	4,874	4,659
事業費累計		5,528	8,540	17,901	33,096	43,917

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	C	クマについては、里山周辺の生息調査を行うとともに、フォーラム、セミナー等により人身被害防止の啓発を行うことにより、出没が多かったものの、人身被害は2件にとどまった。 ニホンジカについては、糞塊調査に加え、出猟カレンダー調査等を行い、市町等を対象としたセミナーに調査結果を提供することにより、捕獲意欲の喚起につながった。 イノシシについては、個体数推定及び将来予測を実施し、県内の状況把握をすることはイノシシによる農林業被害防止のために有効。 ニホンザルについては、群れの現状把握に向けた調査を行うことは今後の適切な管理のために有効。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	クマについては、春から夏にも人里に多く出没したり、従来クマの生息がなかった地域での目撃情報があるなど、里山周辺のクマ対策の拡充が必要であり、新たに、捕獲促進のための現場研修を実施する。 ニホンジカについては、引き続き、生息状況把握の調査を実施し、市町等に対し、その結果を情報提供し、捕獲の促進を図っていく。 また、県内全域に分布拡大し、農作物被害が増加しているイノシシについては、昨年度行った個体数推定のデータ更新を行い、市町等に情報提供し、捕獲の促進を図っていく。 ニホンザルについては、調査で得られたデータを基に、適切な管理を図っていく。